

経済学部A方式Ⅱ日程・社会学部A方式Ⅱ日程
スポーツ健康学部A方式

3 限 選 択 科 目 (60分)

科 目	ページ	科 目	ページ
政治・経済	2～18	日 本 史	20～35
世 界 史	36～49	地 理	50～57
数 学	58		

〈注意事項〉

1. 試験開始の合図があるまで、問題冊子を開かないこと。
2. 解答はすべて解答用紙に記入しなさい。
3. 試験開始後の科目の変更は認めない。
4. 数学は以下の注意事項に従うこと。
 - ・解答用紙の所定の欄に受験学部を○で囲むこと。
 - ・解答を導く途中経過も書くこと。
 - ・解答はおもて面に記入すること(裏面は採点の対象にならない)。
 - ・その他、解答用紙に記載された指示にしたがい解答すること(この指示どおりでない場合は採点の対象としない)。
 - ・定規、コンパス、電卓の使用は認めない。
5. マークシート解答方法については以下の注意事項を読みなさい。

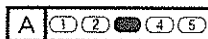
マークシート解答方法についての注意

マークシート解答では、鉛筆でマークしたものを機械が直接読みとって採点する。したがって解答はHBの黒鉛筆でマークすること(万年筆、ボールペン、シャープペンシルなどを使用しないこと)。

記入上の注意

1. 記入例 解答を3にマークする場合。

(1) 正しいマークの例



(2) 悪いマークの例



枠外にはみださなさいこと。

○でかこまないこと。

2. 解答を訂正する場合は、消しゴムでよく消してから、あらためてマークすること。
3. 解答用紙をよごしたり、折りまげたりしないこと。
4. 問題に指定された数よりも多くマークしないこと。

(世界史)

〔I〕 次の文章を読み、以下の問いに答えよ。

イスラーム世界の誕生は一般に7世紀のイスラーム共同体(ウンマ)の成立にもとめ、その後のイスラーム世界については近現代の中東(西アフリカ、北アフリカを含む)地域を念頭におくことが多いといえよう。しかし、21世紀においては西南アジア・南アジア・東南アジア島嶼部にも人口の多数がイスラーム教徒である地域があることを忘れてはならない。このうちイラン以東のイスラーム教徒の人口の増大は目覚ましいとされている。パキスタンの人口に占めるイスラーム教徒の割合は96.4%(2010年。以下同)になり、インド14.6%、バングラデシュ90.4%、さらにマレーシア61.4%、インドネシア88.1%になるという。ある調査機関の予想では2030年にはこの地域のイスラーム教徒の人口は13億人を超すといわれ、それはこの地域の人口の3割近くに達するという。この地域のイスラーム化の歴史を見てみよう。

インド北西部のイスラーム化は、10世紀半ばアフガニスタンの [1] に成立した [1] 朝が、10世紀末からインドへの侵略を繰り返したことに始まるとされている。この王朝は12世紀半ば、同じアフガニスタンのイスラーム王朝 [2] 朝に滅ぼされた。さらに [2] 朝は北インドのヒンドゥー勢力 [3] 族の [4] 王国を滅ぼしたが、13世紀初めにセルジューク系の [5] 王朝に滅ぼされた。

この新興イスラーム国家はイランからインド北西部におよぶ領域を支配したが、そのうちインド部分には13世紀初頭からデリーを都とする五つの王朝が継起し、^(a) 隆盛をきわめた。その最初の王朝は [6] と呼ばれ、インド史上初のイスラーム王国であった。その創始者はトルコ系の軍人で [7] といった。当時の歴史家ジャー・バラニーの記録『フィールーズ・シャーの歴史』によれば、この王朝の実権を握っていた摂政はトルコ系官僚とインド人ムスリムの間に生まれたあつれきにたいして有能なインド人を登用するなどして支配を安定させたという。

次の [8] 朝のジャラルッディーンは南インドまで侵攻し、先のジャー・バラニーによれば外敵から国を守るためには大軍を維持することが必要であり、そのためには穀物価格を安定させる必要があるとの考えから、彼は市場統制策を実施したという。第三の王朝はその創始者の名前から [9] 朝と呼ばれ、この王朝はヒマラヤからインド亜大陸南端まで支配したのである。モロッコ出身の旅行家 [10] が14世紀に約8年間滞在したのはこの王朝期であった。彼はそのことを『 [11] 』でつぶさに記録している。第四の [12] 朝はティムール^(b)配下のヒズル＝ハンがデリーを占領して建国した国家で、支配域はデリー近郊に限られていた。最後の [13] 朝はアフガン系貴族のバフルールが建国した国家であった。

ところで、 [10] は [9] 朝のスルタンの命で中国に向かうことになり、首都から陸路キャンベ湾に出て、インド南岸を南下し、セイロンを経由してベンガル湾に入り、それから再び南下し、マラッカ海峡を経てベトナム、さらに泉州に向かったと述べている。彼はスマトラ島のイスラーム王国を訪れたと書いているが、これはスマトラ島北端にあった王国で、東南アジアではじめて王がイスラームに改宗したと伝えられる [14] であったと考えられている。

ジャワ島東部では、ヒンドゥー教の影響をうけた [15] 王国が13世紀末の元の来襲を契機に成立した。^(c)この国はその後15世紀後半にイスラーム勢力の旺盛な商業活動の進展によって滅亡し、ジャワ島でインド系の文化の影響を受けた最後の王朝となった。その後、16世紀末ジャワ島中・東部に [16] 王国が成立した。

なかでも東南アジアのイスラーム世界の成立に大きな意味をもったのは、15世紀 [17] 王国の王がイスラーム化したことにあると言われている。それはこの王国がこの地域全体のイスラーム商人のインド洋と南シナ海を結ぶ商業活動を活性化させたことによると言われる。そして、この国の商人たちが用いる言葉はこの地域全体に広がった。 [17] 王国のほかにも [14] や [18] 王国などの港市国家が成立していた。そして、1511年ポルトガル人が [17] 王国を占領すると、こうしたイスラーム商人たちは [17] 王国からスマトラ西北部の [18] 王国、西部ジャワの [19] 王国、スラウェシ島南部の

などの周辺の港市に拠点を移した。こうして 王国の都は をしのぐ胡椒交易で栄えたのである。

16世紀初頭にムガル帝国が成立するまでの間に、東南アジアのイスラーム化がこのように定着したのは、南インドにおけるイスラーム商人のインド洋と南シナ海を結ぶ商業拡大を前提としていたと考えるべきであろう。

問1 文中の空欄 ～ に最も適した語を下の語群から選び、その記号を解答欄にマークせよ。

- | | | |
|-----------|----------|----------|
| a ガズナ | b カーブル | c ゴール |
| d チャーハマーナ | e チャールキア | f ブハラ |
| g ホラズム | h マラータ | i ラージプート |
| j ラホール | | |

問2 文中の空欄 ～ に最も適した語を下の語群から選び、その記号を解答欄にマークせよ。

- | | |
|--------------|--------------|
| a アイバク | b イブン＝バットウータ |
| c イブン＝ファドラーン | d イブン＝ルシュド |
| e トウグルク | f 奴隸王朝 |
| g バフマニー | h ハルジー |
| i ファーティマ | j ムアーウイヤ |

問3 文中の空欄 ～ に最も適した語を下の語群から選び、その記号を解答欄にマークせよ。

- | | |
|------------|---------------|
| a アユタヤ | b 海と陸の旅 |
| c サイイド | d 旅行記(三大陸周遊記) |
| e サムドラ＝パサイ | f 世界周航記 |
| g チャンパー | h マジャパヒト |
| i ラタナコーシン | j ロディー |

問4 文中の空欄 ～ に最も適した語を下の語群から選び、その記号を解答欄にマークせよ。

- | | |
|-----------|---------|
| a アチェ | b スコータイ |
| c タウンゲー | d チャクリ |
| e バタビア | f バンテン |
| g ブルネイ | h マカッサル |
| i (新)マタラム | j マラッカ |

問5 下線(a)の五王朝に関する説明で正しいものを一つ選び、その記号を解答欄にマークせよ。

- a 第一の王朝の創始者は、ゴール朝のインド遠征に同行し北インドの支配地域の経営をまかされた。
- b 第二の王朝は、地租を穀物による物納化した。
- c 第三の王朝は他の王朝とことなりアフガン系であった。
- d 第四の王朝は15世紀から16世紀まで続いた。
- e 第五の王朝はパーニパットの戦いで勝利した。

問6 下線(b)に関連して次の記述で誤っているものを一つ選び、その記号を解答欄にマークせよ。

- a 15世紀、ヘラートがサマルカンドとならび栄えた。
- b ティムール朝の都はサマルカンドにあった。
- c 彼がティムール朝を打ち立てた年は1370年である。
- d 彼はチンギス＝ハンの子孫を自称した。
- e 彼は1402年オスマン帝国との戦いに破れた。

問7 下線(c)に関連して次の記述で誤っているものを一つ選び、その記号を解答欄にマークせよ。

- a アンコール＝ワットは仏教の寺院として造営されたのち、ヒンドゥー教の寺院となった。
- b メコン川中流におこった真臘はヒンドゥー教が国教である。
- c ジャワの影絵ワヤンは『ラーマーヤナ』『マハーバーラタ』を主題としたものが多い。
- d ジャワ島では仏教国シャイレンドラ朝が生まれたが、9世紀ころヒンドゥー勢力が台頭した。
- e 2世紀から17世紀インドシナ半島東南部にあったチャンパーはヒンドゥー＝インド文化の影響が強い。

問8 次の記述で誤っているものを選び、その記号を解答欄にマークせよ。

- a ハディースとは非アラブ人のイスラーム教改宗者のことである。
- b マドラサとはイスラームの高等教育機関である。
- c 現在のアラビア数字の原型はインド数字である。
- d ワクフとはイスラーム法に基づく寄付行為のことである。
- e モスクとはイスラーム教の礼拝堂のことである。

問9 次の記述で誤っているものを選び、その記号を解答欄にマークせよ。

- a ベトナム北部を中心に東南アジア各地にドンソン文化という青銅器・鉄器文化がひろがった。
- b 真臘はクメール人の国家で、9世紀アンコール朝の時代から13世紀にかけて栄えた。
- c 紀元前1世紀から紀元後3世紀に北西インドから南インドにかけて活発だったサータヴァーハナ朝はローマ帝国との海上交易で栄えた。
- d ビルマのバガン朝は11世紀から、13世紀末にかけてヒンドゥー教の港市国家として栄えた。
- e スマトラ島にマレー人が建てた交易国家シュリーヴィジャヤはパレンバンを中心に海上交易で栄えた。

〔Ⅱ〕 次の文章を読み、以下の問いに答えよ。

ユーラシア大陸の東と西は、古来より代表的な三つの交易路で結ばれていた。陸路では、草原の道とオアシスの道があった。草原の道では、紀元前の時代から遊牧騎馬民族が、東西文化の伝播の上で大きな役割を果たした。とくに13世紀には、モンゴル民族がユーラシア大陸の東西に広がる支配権を確立し、交易ルートが安定したことで、草原の道での交易は最盛期を迎えた。①はこの道を通して東欧へと西征した後、南ロシアのサライを都として A 国を建て、中央アジアにはアルマリクを都として B 国が建国された。ローマ教皇の命を受け1245年リヨンを出発したフランチェスコ派修道士 ア も、フランス王 ② の命を受けて十字軍への協力依頼とキリスト教布教のためにモンゴル高原に向かった イ も、草原の道を通して当時モンゴル帝国の首都であった あ に至った。このルートの西側出口である黒海に商館を設置し、地中海商業圏と結びつける役割を果たしたのは、イタリア諸都市の商人であった。とくに ウ と エ は黒海と地中海を結ぶルートでの覇権を競った。ウ 出身の ③ は、1295年に元から帰国した後、兵士として エ との戦いに従軍し捕らえられ、獄中で東方旅行談を口述した。

また、オアシスの道は、ユーラシア大陸の東西を最短距離で結ぶルートであり、乾燥した草原地帯や砂漠地帯に点在するオアシス都市を中継地とする隊商交易が発達した。このルートは、前漢の武帝が ④ を西域に派遣して以降、整備され、長い間、東西交易の中心的ルートとなった。このルートでは、イラン系の い 商人が活躍した。

また、アジアとヨーロッパが直接海路によって結ばれていない時代には、中東を経由してインド洋と地中海を結ぶ交易活動が存在した。これは海の道と呼ばれている。8世紀頃からムスリム商人がインド洋交易圏で活躍するようになってから、このルートの通商がとりわけ盛んになった。

インド洋交易圏と地中海交易圏を結ぶルートは、ペルシア湾ルートと紅海ルートがあり、 C 朝の全盛期には、第2代カリフ ⑤ によって造営された首都バグダードを経由するペルシア湾ルートが栄えた。しかし、10世紀半ば

にイラン人の軍事政権である [D] 朝がバグダードに入城し、その後11世紀半ばにも、トルコ人のセルジューク朝の始祖 [⑥] が [D] 朝を倒してバグダードに入城した。そして、13世紀半ばに、 [⑦] の率いるモンゴル軍がバグダードを陥落させ、 [C] 朝は滅亡した。 [⑦] は新たに建国した [E] 国の首都を [う] に置いた。このようなバグダードの混乱と衰退のため、ペルシア湾ルートに代わって、紅海ルートが重要となり、カイロがインド洋と地中海を結ぶ交易活動の中心地となった。カイロは、969年に [F] 朝によって造営されたが、この王朝は [え] 人のサラディンによって倒され、カイロは [G] 朝の都となった。サラディンは、1187年に十字軍から聖地イェルサレムを奪回した。しかし、 [G] 朝はサラディンの死後衰退し、1250年にトルコ系の奴隷からなる [H] 軍団のクーデターによって滅亡した。 [H] 朝第5代のスルタンであった [⑧] は [C] 朝の滅亡後、不在となっていたカリフをカイロに復活させた。 [G] 朝や [H] 朝の保護下では [お] 商人が活躍した。彼らは、インド洋からアラビア半島南端の港市 [か] に運び込まれる香辛料や陶磁器、絹などを買い付け、それらを紅海とナイル河を経由してカイロやアレクサンドリアに運び、そこで地中海交易のネットワークを持っていた [ウ] や [エ] の商人に売り渡した。このようなインド洋交易圏と地中海交易圏の結びつきは、15世紀以降発達した航海術と、その結果16世紀に開発されたヨーロッパとアジアや新大陸を直接結ぶ長距離航路によって大きく変化した。

ヨーロッパでは、ポルトガルが、いち早くインド洋方面への遠洋航海術の開発に着手した。 [オ] は、航海研究所を開設し、国営事業としてインド航路開拓を行う先鞭をつけた。ポルトガルからアフリカ西岸沿いに徐々に南下して航路の調査が行われ、この事業は、 [⑨] に受け継がれ、彼の命で出航したバルトロメウ＝ディアスは、1488年、アフリカ南端の喜望峰に達した。これによって、アフリカ南端を迂回してインドに向かう航路の可能性が開かれ、1498年、 [⑩] の命を受けてリスボンを出航したヴァスコ＝ダ＝ガマは、喜望峰を回りアフリカ東岸を北上し、インド洋を横断してカリカットに到達した。こうしてインド航路開拓に成功したポルトガルは、東南アジアや東アジアとの直接交易を

開始し、これによってヨーロッパとアジアの交易圏は、中東を経ずして結ばれるようになった。

問1 空欄 ～ に当てはまるもっとも適切な人名を次の選択肢から選び、その記号を解答欄にマークせよ。

- | | |
|------------------|----------------|
| a オゴタイ＝ハン | b 霍去病 |
| c 甘英 | d シャルル7世 |
| e ジョアン1世 | f ジョアン2世 |
| g 張騫 | h チンギス＝ハン |
| i トゥグリル＝ベク | j ハイドゥ |
| k バイバルス | l バトゥ |
| m 班超 | n ハールーン＝アッラシード |
| o フィリップ2世 | p フィリップ4世 |
| q フェルナンド1世 | r フラグ |
| s マテオ＝リッチ | t マヌエル1世 |
| u マルコ＝ポーロ | v マンスール |
| w モンケ＝ハン | x モンテ＝コルヴィノ |
| y ラシード＝ア(ウ)ッディーン | z ルイ9世 |

問2 空欄 ～ に当てはまるもっとも適切な国名，王朝名，民族名を次の選択肢から選び，その記号を解答欄にマークせよ。

- | | | |
|----------|----------|------------|
| a アイユーブ | b アッパース | c イル＝ハン |
| d ウマイヤ | e エジプト | f カザン＝ハン |
| g カズナ | h カラ＝ハン | i キプチャク＝ハン |
| j ギリシア | k 後ウマイヤ | l サーマーン |
| m サファヴィー | n シリア | o チャガタイ＝ハン |
| p ナスル | q ファーティマ | r フェニキア |
| s ブワイフ | t ベルシア | u ホラズム |
| v マケドニア | w マムルーク | x ムラービト |
| y ムワッビト | z ローマ | |

問3 空欄 ～ に当てはまるもっとも適切な語句を次の選択肢から選び，その記号を解答欄にマークせよ。

- | | | |
|----------|---------|-----------|
| a アヴァール | b アデン | c イスファハーン |
| d ウイグル | e エミール | f カシュガル |
| g カラコルム | h カリカット | i カーリミー |
| j キルギス | k クチャ | l クルド |
| m サマルカンド | n 成都 | o ソグド |
| p 大都 | q タブリーズ | r ダマスクス |
| s バスラ | t ベドゥイン | u ベルベル |
| v ホルムズ | w マジャール | x メッカ |
| y メディナ | z ユダヤ | |

問4 空欄 ~ に当てはまるもっとも適切な語句を解答欄に
記入せよ。 , , には人名, ,
 には都市名が入る。

〔Ⅲ〕 次の文章を読み、以下の問いに答えよ。

スペインでは、1923年にプリモ＝デ＝リベラがクーデターで独裁政権を樹立し、イタリアのファシズムを模範とする政策を実行した。〔A〕年4月の地方選挙で共和派が勝利し、アルフォンソ13世が退位すると、この国は共和政へ移行する。国王は亡命し、スペイン＝ブルボン朝は滅びた。

その後、スペイン国内は左右の政治対立によって混乱をきわめていく。

〔B〕年の総選挙で人民戦線派が勝利し、〔1〕を大統領とする内閣が誕生すると、旧王党派やカトリック教会勢力、軍部などの支援を取りつけた〔2〕が反乱を起こし、国を二分する内戦へと発展する。内戦に対して、各国の対応は分かれた。〔ア〕と〔イ〕は不干渉を決めたが、〔2〕に支援を求められた〔ウ〕と〔エ〕は軍需物資を提供し、正規軍をスペインへ派遣した。経済危機を打破しようとする〔エ〕は対外進出を狙ってエチオピアに侵攻し全土を征服していたが、この侵略とスペイン内乱を通じて〔ウ〕と〔エ〕は急速に接近する。その一方で、〔オ〕は人民戦線政府を援助した。欧米の知識人、社会主義者、ファシズム諸国から亡命した者たちが集結した国際義勇軍が政府軍に参加すると、内戦は当時の国際的な対立関係を浮かび上がらせた。国際義勇軍の中には世界的に著名な作家もみられ、それぞれがこの内戦をテーマとする文学作品を残した。代表的なのは、〔カ〕の〔3〕による『誰がために鐘は鳴る』、〔ア〕の〔4〕による『カタロニア賛歌』、〔イ〕の〔5〕による『希望』である。

この内戦中、スペインの小都市のひとつである〔6〕が〔ウ〕の空爆を受けて、焦土と化す。その報をパリで聞いた〔7〕は、〔6〕を主題とする絵画作品を制作し、泣き叫ぶ母親や、救いを求めるように両手を天へ伸ばす人、いなくなつて馬などを描いて、戦争の悲惨さを訴えた。内戦は〔C〕年に〔2〕側が〔8〕を占領して勝利を収め、終了する。〔9〕党を唯一の政治団体とする独裁体制を固めた〔2〕は、第二次世界大戦中も国家主席としての地位を保った。〔10〕首相によって独裁体制がしかれていたポルトガルと同様に、スペインも第二次世界大戦においては〔11〕の立場をとった。

問1 空欄 ～ にもっとも適切なものを以下の語群から選び、その記号を解答欄にマークせよ。

- | | | |
|----------|---------|-----------|
| a アサーニャ | b オーウェル | c グラナダ |
| d クレマンソー | e ゲルニカ | f サラザール |
| g スウィフト | h 枢軸国 | i ダリ |
| j 中立国 | k バルセロナ | l ピカソ |
| m ファランヘ | n フランコ | o ヘミングウェイ |
| p マドリード | q マルロー | r 連合国 |

問2 空欄 ～ にもっとも適切なものを以下の語群から選び、その記号を解答欄にマークせよ。

- | | | |
|----------|---------|--------|
| a アメリカ | b イギリス | c イタリア |
| d オーストリア | e オランダ | f ギリシア |
| g ソ連 | h ドイツ | i トルコ |
| j ハンガリー | k フランス | l ベルギー |
| m ポルトガル | n ルーマニア | |

問3 空欄 ～ にもっとも適切なものを以下の語群から選び、その記号を解答欄にマークせよ。

- | | | | | |
|--------|--------|--------|--------|--------|
| a 1931 | b 1932 | c 1933 | d 1934 | e 1935 |
| f 1936 | g 1937 | h 1938 | i 1939 | |

問4 下線(a)に関連して、スペインにおけるこの権威主義体制は、1975年にブルボン朝が復活し、1978年に国民投票で新憲法が承認されたことで民主的君主制に移行した。このとき、民主化を推進したスペイン王として、もっとも適切なものを以下の語群から選び、その記号を解答欄にマークせよ。

- | | |
|----------|--------------|
| a カルロス4世 | b フアン＝カルロス1世 |
| c フェリペ5世 | d フェルナンド7世 |

問5 下線(b)に関連して、第二次世界大戦中に同じ立場をとった国として、もっとも適切なものを以下の語群から選び、その記号を解答欄にマークせよ。

- | | |
|----------|---------|
| a スウェーデン | b ハンガリー |
| c フィンランド | d ブルガリア |

(地 理)

〔I〕 つぎの文章を読み、以下の問いに答えよ。解答はすべて解答用紙に記せ。

アメリカ合衆国(以下アメリカ)は、本土とアラスカ、ハワイ、その他の地域からなるが、本土はおよそ北緯25度から 度の間にあり、東側で大西洋に、西側で太平洋に面している。地形的にみると、東部は丘陵状の地形が多く、なだらかな 山脈が南北にはしり、カナダ国境沿いには五大湖がある。中央部は広大な平原地帯が広がっており、同国最大の流域面積をもつ 川が流れている。西部は、標高4000mを超える峰を多数もつ 山脈と広大な高原・盆地などによって構成される山岳地帯である。アメリカを気候区分でみると、熱帯気候から乾燥気候、温帯気候、冷帯気候、寒帯気候まであり、山岳地帯は高山気候となっている。

アメリカの工業は、20世紀半ばまでは、北東部から五大湖沿岸にかけての工業地域が主導していた。北東部は織物業などの伝統的工業が発展し、その後は人口の集積を生かした都市型の工業が中心となっている。これらの地域では、アメリカ最大の鉄鉱山である の鉄鉱石と 炭田、中央炭田などの豊富な資源を水運で結びつけ、鉄鋼業や自動車産業などを発展させてきた。北東部の工業地帯は、五大湖の水運と運河、 海路を経て、大西洋とも結ばれている。しかし、1970年代以降、資源の枯渇や諸外国との競争などにより衰退傾向になり、 ベルトともよばれるようになった。他方、第二次世界大戦後は、サンベルトとよばれたメキシコ湾岸や太平洋岸などに、石油化学工業や航空宇宙産業、エレクトロニクス産業などの先端技術産業が立地するようになり、急速な経済発展がみられた。 州のシリコンバレーなどは、先端産業の集積地域として有名である。

アメリカは世界を代表する工業国であるとともに、世界有数の農業国でもある。農用地は国土面積の40%を超えており、機械化や大規模経営、適地適作など効率的な農業経営が行われている。人口でみると、農業人口は就業人口の約